

田舎で仕事を見つけた人に聞く

どうやって仕事を

見つけたのですか？

田舎には求人が少ないのは事実。しかし、移住者はちゃんと仕事に就いています。では、少ないチャンスをどのようにものにしたのか、一挙公開します。

入内島理絵さん●37歳

1年9カ月前に、
東京都大田区から
千葉県いすみ市に移住



仕事は、コンビニでバイト+自宅で整体サロンをしています。いすみ市の人は皆さんもの静かで、嫌な思いや身の危険を感じることはほとんどありません。気ままな独り暮らしで、田舎の生活を楽しむにはとてもいいところだと思っています。田舎で人脈を広げるには、イベントにこまめに顔を出すことをお勧めします。私の場合、地域のイベントで顔だけは存じ上げていたオーナーに偶然会い、コンビニのアルバイトの仕事を紹介されました。人脈が広がれば、条件に合う仕事に出会える可能性は広がると思います。まずはいろんな機会にいろんな場所で、仕事を探していることを言ってみるのも手だと思います。

望月克哉さん●35歳

9年前に東京都から
熊本県阿蘇市に移住



大学時代から野外活動のボランティアをしているうち、将来はこれを仕事としたいと思っていました。大学院のとき、野外活動指導者セミナーで知り合った講師から現在の「なみの高原やすらぎ交流館」を紹介してもらい、職員枠に応募しました。何の縁もなかった九州に移住、結婚もしました。廃校を活用した施設での、都市と農村との交流事業が仕事です。阿蘇市への移住の窓口にもなっています。移住希望者の相談を受けて困るのは、移住の目的が漠然とし過ぎている人。移住前に、田舎で具体的に何をしたいのか、明確なビジョンをつくっておく必要がありますね。それと縁を大切にすること。縁をつくるためには自分からの挨拶が、一番効果的じゃないかと思っています。

入交律歌さん●26歳

2年前に福岡県北九州市から
大分県宇佐市に移住



北九州市の編集プロダクションで働いていたとき、営業をかけたNPO法人「安心院町グリーンツーリズム研究会」から逆にスカウトされて移住を決めました。修学旅行生と農泊先をつなぐ仕事で、常に地域の人と顔を合わせているので、オンとオフの切り替えを意識的にしないといけません。田舎には田舎の論理があります。田舎で仕事をするには、それを柔軟に受け入れる姿勢が必要じゃないかと思っています。食生活は絶対に困りません。日ごろの付き合いを大切にしていれば、お裾分けという素晴らしいシステムに助けられますよ。

迫村和亮さん●22歳

3年前に福岡市から
宮崎県五ヶ瀬町に移住



通っていた専門学校の講師が、現職場の理事長と知り合いだったので、そこから求職の情報をもらい応募して決まりました。地域の人たちが自分を受け入れてくれたので、ホッとしています。子どもたちと畑をつくったりキャンプをしながら自然教育をする仕事なので、自然と子どもの親たちと仲くなりました。世間が休みの日のほうが忙しく、夏休みや冬休みには毎日朝早くから夜遅くまで仕事ということも。じつは都会にいたときより自由な時間は減りましたが、もともとやりたかった仕事なので苦にはなりません。田舎だからと気を使い過ぎないで入ってくるのがいいですね。ただし言いたいことはちゃんと言うことも必要です。

田中希帆さん●22歳

4カ月前に鹿児島県から
宮崎県五ヶ瀬町に移住



学生のころから将来は野外活動に携わる仕事がしたいと思い続けていました。偶然今の職場の理事長を知り、夏に2週間ほどアルバイトしたことで就職はすんなり決まりました。家も地元の区長さんの口添えで紹介してもらいました。方言がきつくて勘違いすることもしばしばありますが、徐々に覚えています。普段から田舎で働きたいという意味と内容を明確にしたうえで、そういった関係者や研究機関などにアピールしていけば、道は開かれると思います。

渡邊泰成さん●29歳

2年前に長野県から
新潟県津南町に移住



ここへ来るまでは夫婦2人とも標高2800mの常念岳の山小屋で働いていました。山で働きながら美術作品をつくっていた関係で、十日町市で行われていた大地の芸術祭の方と知り合い、その人の紹介で今の仕事を紹介されました。ここは標高600m。廃校になった小学校の校舎を利用した温泉宿で、かたくりの宿と言います。転職して最初にとまどったのは、山小屋のように黙っていても客が来る宿と違って、ここでは宣伝しないと客が来ないことでした。これには悩みました。田舎には職場がないって言いますが、選り好みをして探せば、きっとあります。あきらめずに探すことですね。収入はもちろん、都会と比べて少ないです、でもその分食費や衣料費などもかかりません。ぜいたくさえしなければ心豊かに暮らすことができます。

人づてで

仕事を紹介してもらいました

誰もが口にする、田舎での人と人とのつながりの重要性。普段の暮らしだけでなく、職探しにも田舎の人脈ネットワークは活用すべき。もちろん、それなりの人間関係を事前に築いておく努力が必要だ。

近見芳恵さん●27歳

4年前に福岡県から
島根県海士町に移住



大学を卒業後、小学校の非常勤講師として働いていたとき、海士町に移住していた友人から今の職場である隠岐自然村の代表を紹介してもらいました。1カ月半インターンシップで働いた後就職が決まりました。今はNPO法人化し、事務局長として自然体験や環境教育などの活動をしています。自由になる時間は減りましたが、苦ではありません。隠岐島は移住者が多いのと島全体がアットホームなところで、本名よりニックネームで呼ばれることが多いですね。海がしけると島の外に出られなくなることを除けば、生活面で不便はそれほど感じません。これからの移住者には、就職という視点よりも自身で何かを生み出すアイデアを持った人が重宝されると思います。それと、島での運転はマニュアル免許のほうが役に立ちますよ。

吉岡邦治さん●43歳

10年前に埼玉県から
栃木県鹿沼市に移住



将来、自分の工房を持って木工をやりたいと思いながら、証明写真機のメンテナンスをしていました。すると10年前、社内で新たに宇都宮エリアの求人広告を出すことを知り、田舎で工房を持つチャンスと思って名乗り出ました。そして、借家に住みながら鹿沼市の山手に家や工房をセルフビルドしました。仕事は、途中からアルバイトに切り替えて、創作活動の時間を持てるように調整。その後は、技術を活かして建具屋へ転職。現在は、建材屋で働いています。田舎では、地区や子どもの学校行事など、仕事以外の活動が意外と多く、初めは驚きました。しかし、建材屋の仕事も日ごろのお付き合いから生まれたもので、人とのつながりの大切さを再認識しています。